

カナダドル為替相場について

2007年3月11日

【先週の動きと今後のポイント】

対米ドル相場：小幅反発



- ・週末引値：1.1725（前週末比+0.4%、昨年末比-0.6%）
前週の1.5%下落の後、先週は小幅反発となっています。2月末対比では0.2%下落しています。

「国内経済指標等」

- ・ 6日（月）：2月Ivey購買部協会指数60.5、市場予想を上回る。1月住宅建設許可件数+11.3%（前月比）、前月の-7.8%の反動増も、市場予想を上回る。中央銀行の政策金利決定会合の結果、金利据え置きを決定。市場予想通り。
- ・ 8日（木）：2月住宅着工件数19万6千2百件、市場予想を下回る。1月新築住宅価格指数+0.3%（前月比）、市場予想をやや上回る。
- ・ 9日（金）：2月失業率6.1%、前月比0.1%ポイント低下。市場予想は横ばい。雇用者数1万4千2百人増。市場予想を上回る。1月国際商品貿易64億カナダドルの黒字。市場予想を上回る黒字幅。

今週は第4四半期労働生産性、設備稼働率、1月製造業出荷等の発表が予定されています。

「テクニカル分析等」

米ドルは週初に直近高値を更新した後、反落傾向となり、週末のカナダ雇用統計が予想を上回ったことを受けて、60日移動平均線まで下落しています。ボリンジャーバンド（2シグマ）は縮小傾向となっており、レンジ相場となる可能性が高そうです。上値はボリンジャーバンド上限のある1.18台半ば、下値については、20日線を割り込めば下落圧力が高まりそうですが、10月下旬の安値を起点としたサポートラインのある1.16台前半程度が目処となりそうです。

対円相場：大幅反発



- ・週末引値：100円90銭（前週末比+1.7%、昨年末比-1.2%）
前週の5.0%という極端な下落の後、先週は相応に反発しています。2月末対比では0.4%下落しています。

「テクニカル分析等」

週初に急落したものの、前回レポートで記した重要な2006年1月安値（97円16銭）を下抜けることはできず、その後は急激に反発しています。特に、週末に100円を上抜けると、101円までの急激な戻りとなりました。ボリンジャーバンド（2シグマ）は急激に拡大しており、今後も不安定な展開が続くことを示唆しています。直近高値104円80銭から先週安値97円52銭の50%戻しは101円台前半で既にほぼ達成しており、次のターゲットは61.8%戻しに相当する102円近辺となりそうです。2月下旬からの大幅な下落の勢いや、下げ方のフォーメーションを考慮すると、それ以上の戻りを考える必要は乏しく、中長期的な下落余地は依然として大きいと思われます。特に、今回はホールドしましたが、2006年1月安値の97円16銭を下抜けると、2005年12月高値105円06銭を「左肩」、2006年9月高値106円41銭を「頭」とした「ヘッド&ショルダー」が完成し、88円台をターゲットとした下落が始まることになるでしょう。（石井 貢）